



いきいき1年生



下校班の並び方

～ 基本的な生活習慣・約束事 ～

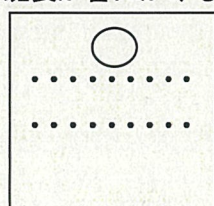
1 目標

- 学校から家に帰るとき、学年の下校班で帰ることが分かりその並び方が分かる。

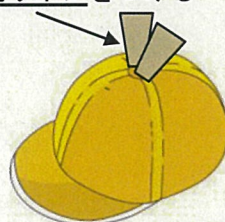
2 展開

学 習 活 動	○教師の指導やねらい等 ☆子どもの反応 ・留意点等																															
1 教室での「帰りの会」が 終わったら、学年の下校班 で帰ることを知る。	○次のことに気付かせ確認する。 ①幼稚園や保育所と違い、家の人が学校まで迎えに来て一緒に帰るの ではなく、自分たちで帰ること。 ②自分たちで交通に気をつけて、安全に帰ること。 ③いずれは、友だちと帰るが、低学年のうちは集団下校すること。 ④教室から出たら、〇〇のところで待つこと。 ⑤他のクラスの友だちとも帰るので、一緒に並ぶこと。																															
(1) 学年の下校班で並んで 帰ること。	○待ち方について知る。 ①〇〇のところへ行き、自分の下校班の看板のところで並び、班員が 全員そろったら座って待つ。																															
(2) 決められた場所で待つ こと。	②班長は、そろったら先生に知らせる。																															
	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td>F</td><td rowspan="5">・ ・ 方面と いう</td></tr><tr><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table> ◎ : 班長 ○ : 班員	A	B	C	D	E	F	・ ・ 方面と いう	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A	B	C	D	E	F	・ ・ 方面と いう																										
◎	◎	◎	◎	◎	◎																											
○	○	○	○	○	○																											
○	○	○	○	○	○																											
○	○	○	○	○	○																											
2 学年の帰りの会をする。	○各班がそろったら、学年の帰りの会をする。																															
(1) 先生の話	①本日のまとめと明日の予定など																															
(2) 交通安全の合い言葉	②交通安全の指導（一列歩行、挙手しての横断歩道） 例（1）交通事故防止 5つの基本行動 もしかして とまる みる まつ たしかめる																															
(3) あいさつ	例（2）全員で暗唱させる ・道路には飛び出しません！ ・家まで並んで帰ります！ ・横断歩道を渡ります！ ③さようなら																															
	※4月当初は、保護者が来ているため落ち着きがないことが予想される が、徐々に慣れてくるので、静かに待たせる。																															
3 下校する。	○途中まで、あるいは一番遠い家まで当初は送っていく。 ○児童の通学路・自宅を確認したり、危険箇所を察知したりする。																															

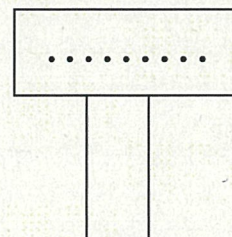
班員の名前を書いた札を班長が首にかけ



安全帽子の上に下校班別の色リボンをつける



班のプラカード





いきいき1年生



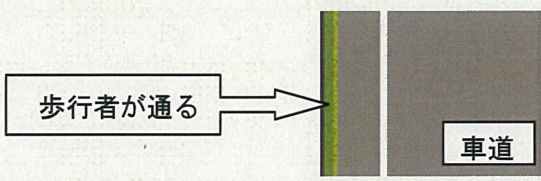
下校班の歩き方

～ 基本的な生活習慣・約束事 ～

1 目標

- 学校から家に帰るとき、学年の下校班で帰ることが分かり、安全な歩き方が分かる。

2 展開

学 習 活 動	○教師の指導やねらい等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 毎日、下校時に安全に歩いているかを思い出す。	○学習の場としては、体育館または校庭がふさわしい。(広い教室) ○問題点があれば、発表させる。子どもたちに解決方法を考えさせる。
2 2班に分かれ、体育館等で実際に下校練習を行う。 (1) 各下校班ごとに並ぶ。 (2) 順に、普段と同様に歩く。 (3) 見ていた子どもは感想を伝える。 (4) 白線の内側で、前を見て歩く。	○安全な歩き方のポイント ・前を見て歩く。 ・前の人に手を振っても当たらないくらいの間をあける。 ・横にはみ出したり、飛び出したりしない。 【子どもからの感想例】 ・近づいて歩いている。 ・離れてしまう。 ・きょろきょろ後ろを見ている。 ・前を見ていない。 ・ふらふらしている。 ・2列に並んでしまう。 ○体育館や校庭の白線などを利用し、その右側を歩かせる。 ○いろいろな体験をさせ、安全意識を高めさせたい。 ①路側帯がある道路・・・・・・・・白線の右側を歩く。 ②路側帯がない道路・・・・・・・・できる限り右側を歩く。  ③横断歩道を渡る・・・・・・・・【改訂版 横断歩道の歩き方 参照】 ④横断歩道がない道を渡る・・・・・・・・【改訂版 横断歩道の歩き方 参照】 ⑤ガードレールがある道・・・・・・・・ガードレールの内側を歩く。 ガードレールをたたかない。  ⑥信号機のある横断歩道・・・・・・・・【改訂版 横断歩道の歩き方 参照】 ○ある程度、2～3分歩かせて、安全な歩き方が身に付くようにさせる。 ○本時で学んだことを基に、当日の下校に活かすようにさせる。 教師は、1つの班を観察する。安全確認をし、危険な行動や危険な箇所には指導を入れる。 ○自動車が通る道を歩く場合には、特に注意を要する。子どもたちがただ歩くだけでなく、自動車の様子にも気を付ける習慣を身に付けさせて、危険回避能力を育てる。 ・スピードがある自動車が来そうなときは、端によける。 ・自動車同士がすれ違い、道幅が狭くなるときはその場に待つなど。
3 体育館で学んだことを基に実際の道を歩く。	

歩き方の練習





白線（路側帯）



横断歩道の渡り方

～ 基本的な生活習慣・約束事 ～

いきいき 1年生



1 目標

- 横断歩道の正しい歩き方を知り、安全に道を渡ることができる。

2 展開

学 習 活 動	○教師、保育士の指導やねらい等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 毎日の登下校に渡る横断歩道や信号を思い出す。	○「みんなは、横断歩道を渡ってきますか?」「信号機を見ていますか?」 ・学習の場としては、体育館または校庭がふさわしい。(広い教室) ・できるだけ子どもたちの身近な町の様子を写真で撮り、自分達の経験を思い出しやすいようにする。
2 信号機の絵を見せ、場面に合わせた横断歩道の渡り方を考える。 横断歩道 標識 横断禁止 標識	○「横断歩道の正しい渡り方を考えましょう。」 ・信号機の色により、どのように渡るとよいかを考えさせる。 【信号機が赤の時】 ⇒ 渡る場所の手前に止まって待つ。 ⇒ 次、青信号になったら、右左右を確認する。 ⇒ 手を挙げて渡る。 【信号機が青の時】 ⇒ 右、左、右を確認する。 ⇒ 自動車が来ないことが確認できたら、あわてず、手を挙げて渡る。 【信号機が点滅している時】 ⇒ 止まって、次、青信号になるまで待ってから渡る。 【渡っている途中に、信号が点滅した時】 ⇒ 横断歩道を渡りながら、安全を確認して渡りきる。(戻らない) ○「横断歩道がない道では、どのように渡ったらいいでしょうか?」 ・渡る場所で止まり、右、左、もう一度右を見る。 ・手を挙げて、「渡ります」と言って渡る。 ・早足で渡る。
3 2班に分かれ、体育館等で道を渡る練習を行う。 (1) 各下校班ごとに並ぶ。 (2) 順に、普通どおり渡る。 (3) 見ていた子どもは感想を伝える。	○「安全に道路を渡る練習をしましょう。」 ・白線を利用して、横断歩道を渡る練習をさせる。 ・様々な場面を想定し、実際に体験させ安全意識を高めさせたい。
4 実際に横断歩道を渡ってみる。	・何度か横断歩道を渡らせて、安全な歩き方が身に付くようにさせる。 ・本時で学んだことを基に、今後の下校に活かすようにさせる。 ・教師は、子どもの登下校の様子を観察し、危険な行動や危険な箇所を確認し、指導を入れる。 ・自動車が通る道路を歩く場合には、特に注意を要する。 ・できるだけ建物寄りに歩く。 ・自動車が通るときは、歩くのを止めてその場に待つなど。



いきいき1年生



大雨、雷から身を守る（竜巻）

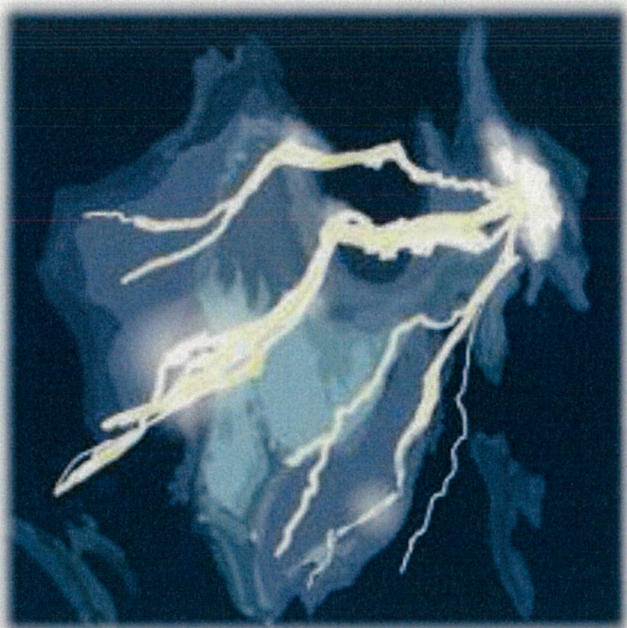
～ 安全な日常生活のために ～

1 目標

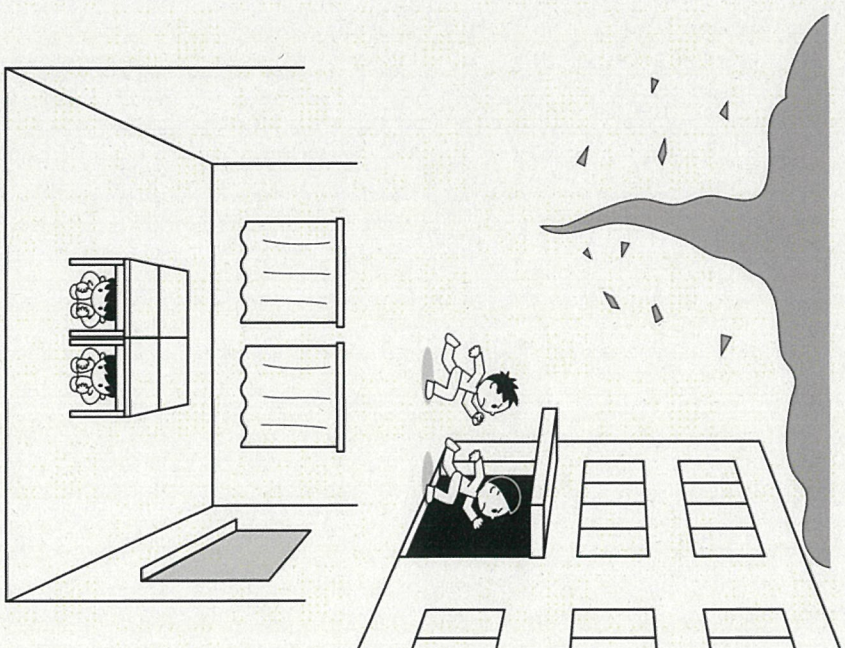
- 大雨や雷が起こると危険であることを知り、身の守り方が分かる。

2 展開

学 習 活 動	○教師の指導やねらい等	☆子どもの反応 ・留意点等
1 雷による災害の様子を知る。 ・資料として、写真を提示する。 2 雷が聞こえたり、見えたりしたとき、どうすればよいかを考える。 ○「雷の音が聞こえたとき、みんなはどうしていますか？」 ☆窓を閉める。 ・実際に雷の音を聞かせる。 ・雷の音が遠くても、雷雲はすぐに近付いてくる。 ⇒建物の中や車の中に入る。 (こども110番の家、学校、保育園、幼稚園など) ・木の幹や枝から、雷にうたれることがある。 ⇒木や電柱の側に行かない。(5m離れる) ・周りが開けた場所(公園や空き地)は、地面よりも高い所に落ちるので危険。 ⇒姿勢を低くする。	1 大雨の様子を思い出させる。 ○「傘をしっかりと握っていないといけなくらいたくさん雨が降ることを何と言うか知っていますか?」「大雨と言うんだよ。」 ・大雨という言葉を知らせる。 2 大雨が降っている時、どのように登下校するかを考える。 ○「大雨になった時どうしていますか?」 ☆建物の中に入る。 ☆大人や友だちと離れない。 ⇒川に近付かない。 ⇒できるだけ高い所に逃げる。 ⇒傘をしっかりとにぎって、早足で歩く。 ・外で遊んでいて大雨が降った場合は、避難場所や建物の中に逃げるように呼びかける。(早め早めの行動が大切!) ・空の様子を見て、雨が降りそうな場合は、建物から出ないことも大切であることを教える。	1 竜巻の様子を写真などで知らせる。 2 避難の仕方を教える。 ○「竜巻を見つけたら、すぐに逃げましょう。」 【下校中】 ・頑丈な建物の中へ逃げる。 ・竜巻に向かって行かない。 【教室内】 ・窓や壁から離れる。 (カーテンを閉める・雨戸を閉める) ・頭と首を守る。 机を寄せて、机の下に隠れる。



かみなり



たつまきがきたら、
たてものの中にげる



いきいき1年生



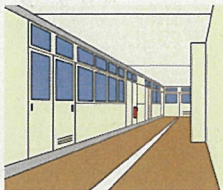
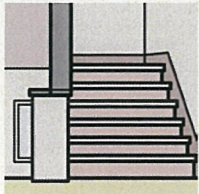
廊下・階段の歩き方

～ 安全な日常生活のために ～

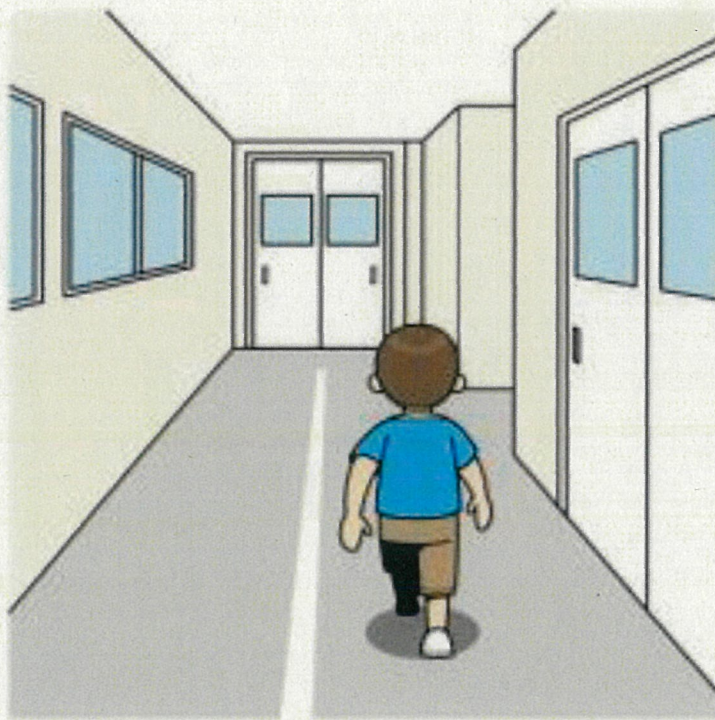
1 目標

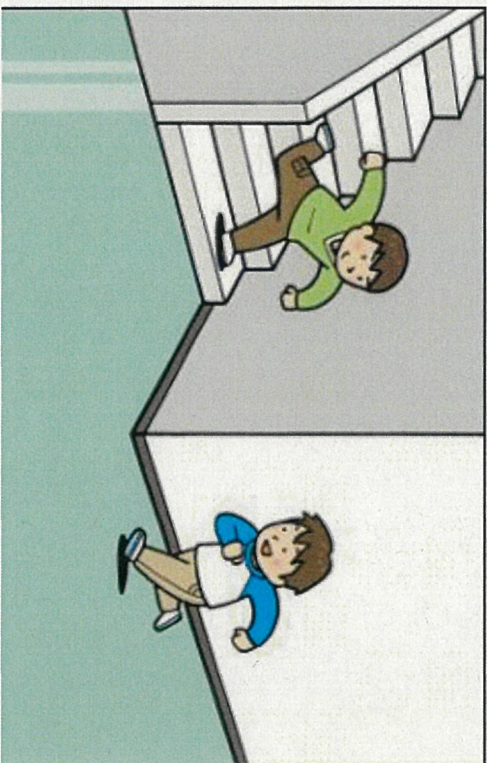
- 廊下や階段では、右側を歩き、安全で安心な学校生活を送る。

2 展開

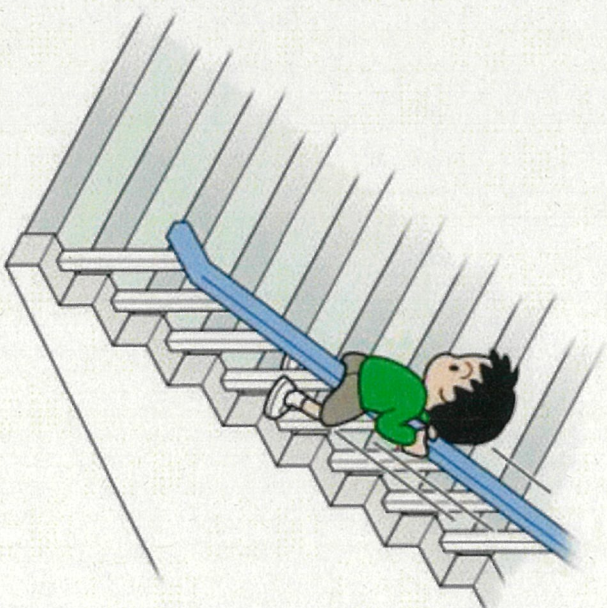
学 習 活 動	○教師の指導やねらい等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 廊下での歩き方を思い出す。	○「廊下や階段では、どんなことに気をつけて歩いていますか？」 ☆走らない。 ☆遊ばない。
【廊下や階段での歩き方】 ①右側歩行 ②歩く（走らない・一列） ③静かに歩く（騒がない・大声を出さない） ④一段抜かしをしない ⑤途中から飛び降りない ⑥階段の手すりを滑って降りない ⑦前の人を押さない ⑧よそ見をせずに歩く ⑨踊り場で立ち止まってしゃべらない	
2 実際に廊下を歩く。 	○「グループに分かれて、廊下や階段を歩いてみましょう。」 ・歩かせるチームと、それを見ているチームに分かれそれぞれに感想を言わせる。 廊下 ← ○ ○ ○ ○ (歩く人) □□□□ (見ている人) ・普段の休み時間の歩き方なども参考にビデオで見させてもよい。 ・静かに歩かせるときは、教室を出る時がポイント！ドアのところで止まって安全確認することやドアをきちんと閉めてからなど、一度止まることを入れるとよい。
3 階段を安全に使う。 	○実際に階段の右側を静かに歩かせる。 ・小グループに分けて、子どもたちだけで歩かせる。 ☆一段一段をよく見る。 ☆一段抜かしをしない。 【指導例】 ・自分たちだけで学校を歩かせるようにする。（私語をさせない） ・職員会議等で事前に職員に知らせる。（子どもたちだけで歩くこと） ・職員からの活動の様子を聞き、今後の指導にいかす。
4 廊下や階段での歩き方のまとめをする。 ろうかは しずかに 	○「歩き方を振り返りましょう。」 ・大勢の人が行き来するので、遊んだり大声を出したりしないようにする。 ・狭い場所なので、走ると、ぶつかってけがをすることを理解させる。 ・自分の歩き方を振り返り、今後の廊下歩行や階段歩行にいかすようにする。 ・歩き方のよかったグループや子どもを賞賛し意欲付けをする。

ろうかは、右がわをあるく





かいだんやろうかをはしらない



手すりをすべらない



いきいき1年生

熱中症対策

～ 安全な日常生活のために ～

1 目標

- 自分の健康に気を付け、熱中症の対処法を理解することができる。

2 展開

学 習 活 動	○教師の指導やねらい等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 なぜ、水筒を学校へ持ってきてよいかを考える。 	【水筒を学校へ持ってくる事前指導として行うとよい。】 ○「6月頃になると、水筒を持ってきてよくなります。」「なぜでしょう？」 ・学校に水筒を持ってくるのはなぜかを考えさせる。 ☆暑くなるから。 ☆のどが渇くから。 ○「みんなは、熱中症という病気を知っていますか？」 ・ただ単にのどが渇くからだけではないことをおさえる。
2 熱中症という症状について知る。 	○「熱中症がひどくなると、命を失うこともあります。」 ・熱中症は、命にかかわる病気であることを話し、真剣に聞くように伝える。 【参考資料：症状】 I 段階 ・めまい ・手足のしびれ ・筋肉痛 ・失神 など II 段階 ・嘔吐 ・頭痛 ・吐き気 ・下痢 など III 段階 ・けいれん ・高体温 ⇒ 病院に運ばれたり、入院したりすることもある。 ⇒ 死の危険性
3 熱中症対策を知る。  帽子をかぶる  水分補給	○「熱中症にならないように、自分の体を守りましょう。」 ・正しい知識で、熱中症を防ぐことができることを教える。 暑い！ ↓ 【体の外】 ・涼しい所 ・日陰 ・クーラー ・帽子をかぶる 冷やす 【体の中】 ・冷たいものを飲む ・水分補給をする ・塩分を含んだ方がよい 【参考資料】 ・屋外では、15分おきに水分補給をする。 ・屋内では、30分おきに水分補給する。 ・水筒の中にたくさん氷を入れてくると、中味がなくなったら、学校の水道などで水を足して、冷たい水をのむことも教える。 ○「水を飲むときは、ごくくんと飲みます。」 「ごくごくは飲みません！」（飲み過ぎ）



遊 具 遊 び

～ 社会性を立てる人間関係づくり ～

1 目標

- 校庭にある遊具の安全な使い方について知り、順番を守って使うことができる。

2 展開

学 習 活 動	○教師の指導やねらい等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 校庭の遊具について知る。	○「学校には、どんな遊具があるか知っていますか？」 ・校庭にはいろいろな遊ぶ道具があることを知らせ、それに伴い、それを使うルールもあることを分らせる。 ※ 登り棒、うんてい、ブランコ、滑り台、シーソー等
2 ルールについて知る。	○「みんなが楽しく遊ぶためには、どんなルールがあると思いますか？」 ・どんなことを守ると安全に遊べるかを考えさせる。 ☆順番を守る。 ☆遊具で遊んでいる友達を押したりしない。 ・遊具の側で鬼ごっこをしない。・遊んでいる友だちにいたづらをしない。
3 外に出て、実際に遊具を使って遊ぶ。	○体育科で扱う場合は、体育着に着替えさせる。 生活科で扱う場合は、普段着でもよい。 (服装については、スカートやフード付き服など、その時の判断で行う) ・学んだことをもとに、 <u>並び方の指示</u> をする【第2版小学校編P15】
(1) 外に出て遊ぶ。	○「これから、みんなで安全に楽しく遊んでみましょう。」
(2) 校庭にある遊具を順番に実際に使って遊ぶ。	・全部の遊具にふれることができたなら、遊ばせる。 ・遊ぶ前に必ず、約束事を教師が伝える。 ・見ていて順番を待つときは、友だちの様子をよく見て安全を確かめさせる。
(3) 自分の好きな遊具を使って遊ぶ。	○それぞれの遊具に集まった友だち同士で、仲良くルールを守って遊ばせる。 ・安全に仲良く遊ぶことは、楽しい事を体感させる。
4 チャイムで教室に帰る。	○つい、遊びのおもしろさに夢中になり、途中でやめられない子どももいると思われる。しかし、チャイムが鳴ったら、途中ででもやめて教室に入ることをしっかり約束させる。(手洗い・うがい)
・校舎内は静かに歩く。	○けがをしてしまったら、友だちと保健室に行き、保健室の先生にみてもらふ。保健室に行ったことをもう一人の友だちから担任の先生に伝えてもらう。

滑っている人がいるのに次々滑らない

立ちこぎをしない



逆走しない



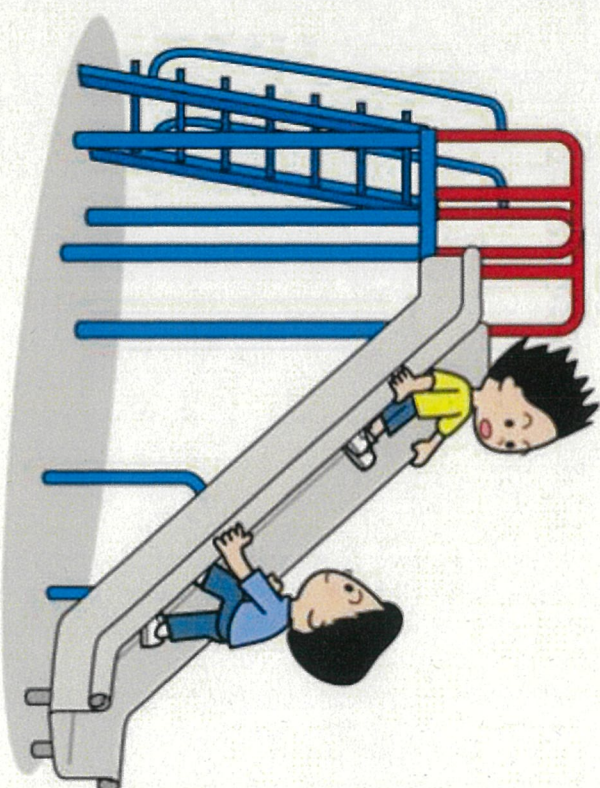
近くに人がいないかを確認する





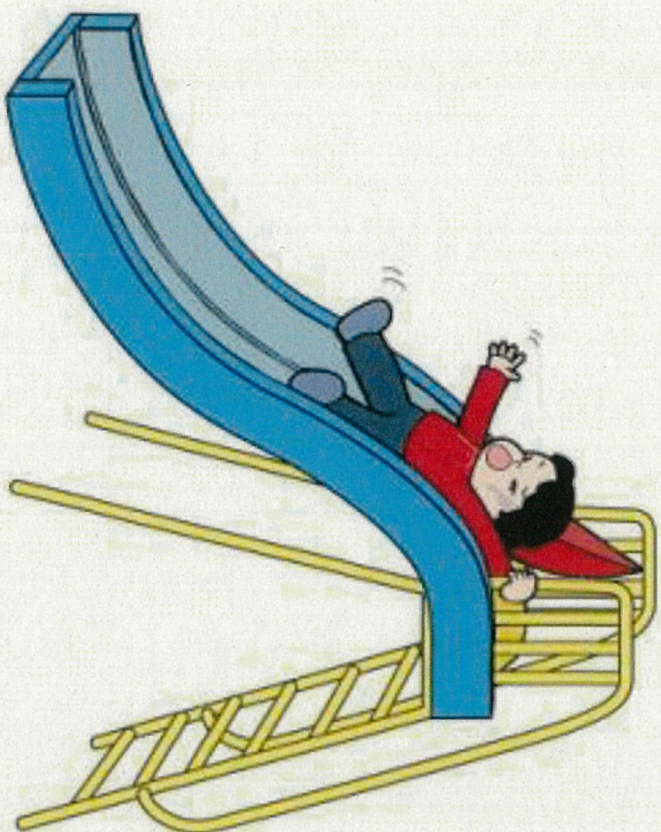
ひとりずつ すべる

(ともだちがすべっているのに、すべらない!)

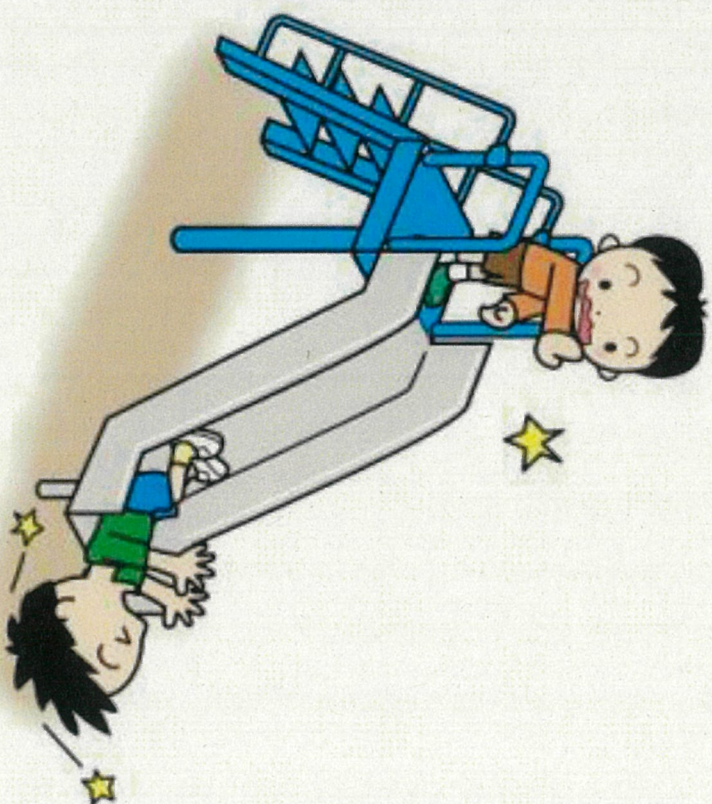


すべるところをのほらない

(ぎゃくそうしない!)



フードつきのようふくは、あふない！



ともだちをつきとばさない！



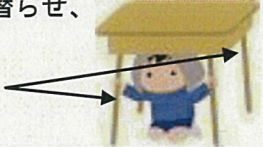
防災頭巾の身につけ方

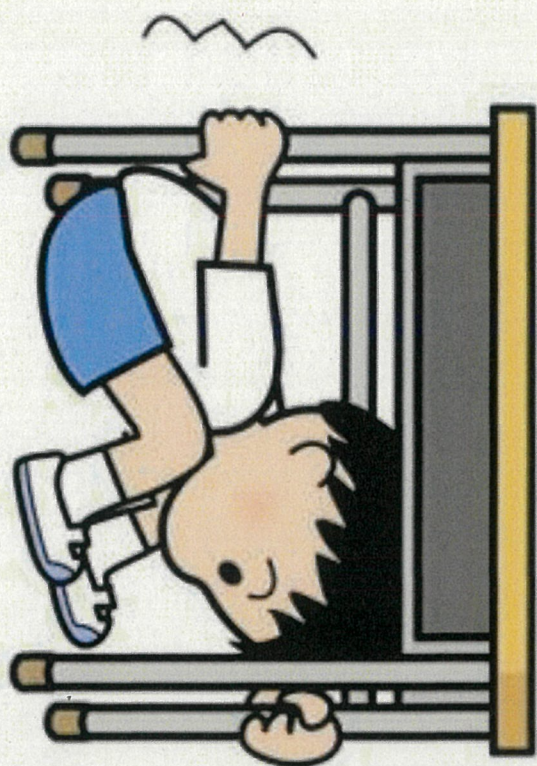
～ 安全な日常生活のために・身につける事項 ～

1 目標

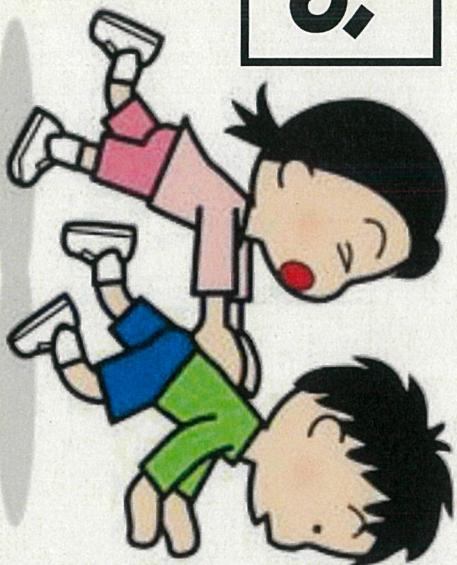
- 防災頭巾をきちんと身につけることができ、安全に生活を送ることができる。

2 展開

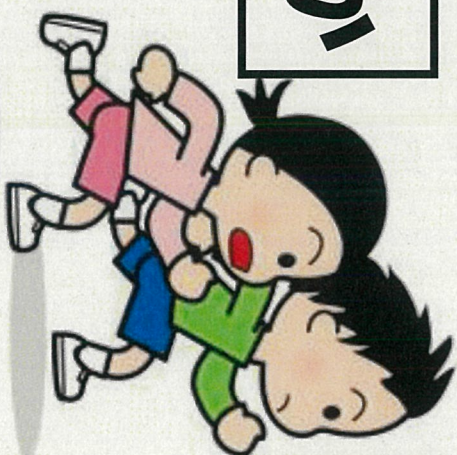
学 習 活 動	○教師の指導やねらい等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 椅子についている防災頭巾の目的について知る。	【避難訓練の前に指導する】 ○椅子に付いている防災頭巾の目的について考えさせる。 ・大切な頭を落下物や火などから守る。 
2 安全に防災頭巾を身につけることができる	○安全に防災頭巾を身につけることを指導する。 ①防災頭巾を出す。 ②かぶる方向を確認する。 ③袋状（輪の部分）の部分を頭の上、開いている部分が上にくるように頭の上からかぶるようにする。 ※両手で開いている方を持つ。 ④あごのところに調節具で合わせる。 ※教師は実際に防災頭巾をかぶり、具体的に示す。 
3 かぶれたら、椅子に座る。もう一度練習することを伝える。	○自分でもう一度させる。できたら、隣同士で点検する。 ・かぶり方が正しいか。 ・隣同士で点検できたら、椅子に座り、ハンカチで口を押さえて待つ。 ⇒場合によっては、地震を想定して、机の下に潜らせ、机の脚を持つことを練習してもよい。 （机の脚は、対角線上に持つとさらによい。） 
4 避難訓練の事前練習をする。	○避難訓練のリハーサルをする。 【約束】 ・学習活動をやめて、体の動きを止める。 ・先生の指示が出てから避難するまでは絶対に<u>しゃべらない</u>。 ・落ち着いて、素早く支度をさせる。 ・ハンカチがない場合には、口を開けないようにさせる。（上着で覆うなど） ・教師が先頭に立って歩く。 ・前の人を押したり、かけたり、列から離れたりしない。 ・忘れ物があっても、<u>戻らない</u>。 【避難訓練の合い言葉】 おさない かけない しゃべらない もどらない はなれない 
5 振り返りをする。	○本番に向けて、振り返りをして改善する。



お



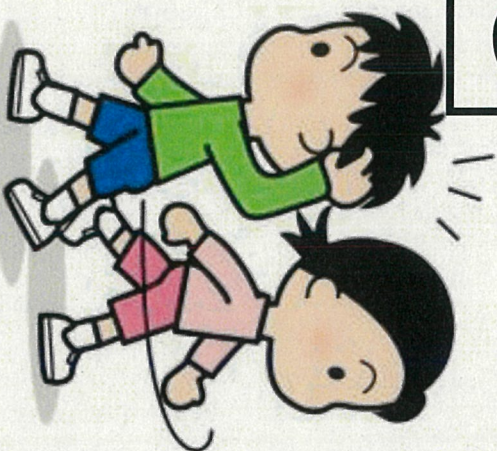
か



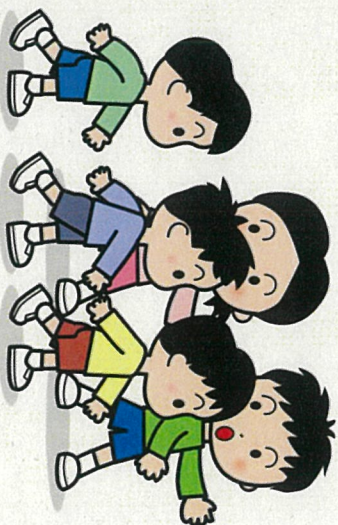
し



も



は





いきいき 1 年生



知らない人への対応（不審者対応）

～ 安全な日常生活のために ～

1 目標

- 不審者から自分の身の安全を守る方法や未然に防ぐ方法が分かる。

2 展開

学 習 活 動	○教師の指導やねらい等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 最近起った不審者情報を知る。	○「知らない人に声をかけられたらどうしますか？」 ☆無視する。 ☆逃げる。 ☆防犯ブザーを鳴らす。 ○市内で起きている不審者情報を知らせる。 ・車から声をかけてくる。 ・自転車のすれ違いざまにいやなことを言われる。 ・急に、傘でたたかれる。 ・服を脱いで、体の一部を見せてくる。 ・物を与えて誘い込む。 など 
2 知らない人に会った時の対応策を知る。 お母さんの所に連れていくよ！ 	○「知らない人に会った時、どうするかを教えます。」 ①車から声をかけてくる。 ⇒「分かりません」と言って立ち去る。 ②すれ違いざまに声をかけられる。 ⇒目を合わせないで立ち去る。 ③急にさわられたり、たたかれたりする。 ⇒走って逃げる。 (子ども 110 番の家、自分の家、学校など大人の助けを求める) ④服を脱いで、体の一部を見せてくる。 ⇒目を合わせないで逃げる。 ⑤自転車に乗って追いかけてくる。 ⇒防犯ブザーを鳴らす。 ⑥手を引っ張って連れ込もうとする。 ⇒大声を出す。「助けて！」 ⑦物をあげるからと誘い込む。⇒首を横に振り、「いりません」と言う。 ○「実際に、知らない人に会った時のために自分の身を守る練習をしましょう。」 ・大人が不審者役をして、様々なパターンの不審者役をする。 ・実際に体を動かして練習することで、身を守る方法を身につける。 ① 分かりません。 ② 目を合わせない。 ③ 走って逃げる。 ④ 目を合わせない。 ⑤ 自分の防犯ブザーを鳴らす。 ⑥ 大声を出す。「助けて！」「いやです！」 ⑦ 「いりいりません！」 
3 実際に身を守る練習をする。  防犯ブザー	○自分の安全を守るために、日頃から安全を意識した行動が大切であることを知らせる。 ・見知らぬ人に会った時に身を守る方法を話し合わせる。 ※不審者が出る時間帯や場所の例をあげ、考えるヒントとしてあげる。 ・1人で下校しない。(友だちと一緒に下校する) ・防犯ブザーをいつもランドセルにつける。 ・大人の見えない所へ行かない。(人気の少ない所) 
4 普段から安全に過ごすことが大切であることを知る。 家の人との約束！ ・1人で遊ばない ・遊ぶ場所を伝える ・帰る時間を伝える	○子ども 110 番の家を確認するよう指導する。